

Title	ペルソナ戦略による履修支援システムに関する研究
Author(s)	董, 又碩
Citation	
Issue Date	2011-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	author
URL	http://hdl.handle.net/10119/9620
Rights	
Description	Supervisor : 落水 浩一郎, 情報科学研究科, 修士

ペルソナ戦略による 履修支援システムに関する研究

董 又碩(0910802)

北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科

2011 年 2月 8日

キーワード：ペルソナ、ペルソナ戦略、履修支援システム、Computing Curricula 2005

1 研究の目的と成果

本論文では、学生の希望進路と情報科学に関する知識の有無、日本語ののうりよくななどの学生の個人的な情報と状態を入力して、学生に適した教育カリキュラムを表示する履修支援システムに関する設計の結果を報告する。

本研究の成果は2つある。

ひとつは、ユーザー中心の履修支援システムを提案するために、ペルソナ戦略を適用して、学生の希望進路と興味分野に基づいた、ペルソナモデルを作成した。

ふたつは、日本統計局の産業分類基準とComputing Curricula 2005（以下、CC2005）の間をマッチングさせて、その結果に基づいたJAISTの教育プログラムとコース、科目群のカリキュラムの提示基準を開発した。

このふたつの成果をまとめて、履修支援システムで使用及び提示が可能な、‘推奨ペルソナモデル’のモデリングを行うし、E-Portfolioシステムへの活用を目指す。

2 研究の背景知識

本研究では、学生の目的及び希望進路など、学生の立場を考慮した教育サービスを提示するために、ペルソナ戦略とCC2005を用いた。

ペルソナとは、人格、位格などの意味で使っているLatin語が由来で、理性と意志を持って自由に行動しながら責任を取れる主体であり、製品やサービスのユーザー像を仮想の人物として具体的に定義したものである。

このペルソナを顧客志向を目指して、製品やサービスの開発、デザイン、マーケティングに適用することを‘ペルソナ戦略’と言う。

ペルソナを利用する、最も大きいメリットは、HCD(Human Centered Design)で製品やサービスのデザイン及び開発、マーケティングが出来るようになることで、実際にサービスを利用するユーザーの観点からサービスの開発が可能である。

また、CC2005は、2005年9月30日にIEEE&ACMから発表された報告書で、情報科学に関する分野を、コンピューター工学 (CE)、コンピューター科学 (CS)、ソフトウェア工学 (SE)、情報システム (IS)、情報技術 (IT) の5つの分野で分類し、それぞれの分野によって、実際の現場で要求されている知識及びスキルを定義し、それを大学の学位と卒業プログラムに関連させ、カリキュラムの履修へガイドンとして提供することが目的である。

3 ペルソナの準備及び関連データの調査

ペルソナの設計のため、JAISTの学生に関するデータを集め、どんな特性をペルソナにつけるべきか、どのようにペルソナを分類するべきかを決定した。

JAISTの学生データブック2009と30人の学生からのアンケート、そして、8人の学生とのインタビューに基づいて、決定したペルソナの特性は以下の通りである。

- ①漢字を読むこと及び日本語ができるか。
- ②情報科学に関する知識の有無
- ③就職と進学など、進路の希望

4 JAIST学生のペルソナモデルの設計

実際に設計するペルソナの体数はMプログラムのペルソナとDプログラムのペルソナ、2体である。

そこで、Mプログラムのコースに対しては、見本ペルソナを作製しておくことで、JAISTの特徴的なプログラムとコースのガイドラインを提供ができるようになった。

また、名前と性別、年齢などの簡単な情報だけを持つ骨格ペルソナに、ユーザーから入力された条件、希望進路と興味分野、日本語及び英語の能力に対して検索したカリキュラムをつけれるように、ペルソナ基本書を作成した。

ペルソナ基本書には、インタビューの結果を基盤とした、入力される情報を表示するプロフィールとカリキュラムの一覧表が含まれる。

5 学生の希望に基づく、カリキュラムの提示方法

CC2005の5つの分野に対して、JAISTで提供している科目群を再分類し、その間の関係を表示する、JAIST教育サービス関係図を作成した。

また、日本統計局から発表された、日本基準産業分類の情報科学分野とCC2005の間をマッピングしてグループ化し、学生が仕事の分野や産業分類のグループから自分の興味の項目を選択すると、JAISTが提供している、関連プログラムとコース、カリキュラムの科目や関連研究室が表示されるようにした。

6 ペルソナモデリングの実行

設計した学生の希望に基づく、カリキュラムの提示方法を用いて、作成した骨格ペルソナモデルに、実際に学生の希望と進路に対して、表示するカリキュラムの作成法を提示し、その結果を示した。

また、その結果に基づく、推奨のペルソナのモデリングを行った。

7 まとめと今後の課題

本研究の成果としては、以下の3つである。

1つ、履修支援システムの設計にペルソナ戦略を適用し、JAISTの留学生のプロファイルを作成。

2つ、JAISTのカリキュラムのガイドラインを提示するため、CC2005に基づいてJAISTのカリキュラムを構造化し、就職分野や研究室との対応表を作成した。

3つ、日本語教育サービスなどの、付加的なサービスを組み込んだ。

今後の課題として、次の2つが考えられる。

1つ、ペルソナモデルによる、e-ポートフォリオの支援方法への研究。

現在、JAISTで提案されている、e-ポートフォリオシステムに、ペルソナモデルを適用する方法に関して研究する。

内容としては、ポートフォリオ化するペルソナの基準とその内容、ペルソナが提示する情報の内容とポートフォリオのくい違いの考慮、どのようにして、ポートフォリオを構成し、提供するのかについて、研究する。

2つ、既存の履修システムとの連動及び統合。

既存のJAISTの履修システムと連動させ、自動的に講義の申請などができるように、履修支援システムと現在のシステムが、別のシステムとしてではなく、連携して利用できるように、システムの統合に関する研究が必要である。

参考文献

[1] Computing Curricula 2005 - The Overview Report, ACM&IEEE, 2005.

[2] キッズコンテンツ作成ハンドブック, Fujitsu, 2007.12.05.

[3] 日本基準産業分類、Gの[情報通信業]とLの「学術研究」、日本統計局、2009.

[4] JAIST DATA BOOK 2009, 北陸先端科学技術大学院大学, 2009.

[5] ペルソナ戦略、ダイヤモンドPress、2009.

[6] Persona (marketing), Wikipedia.

([http://en.wikipedia.org/wiki/Persona_\(marketing\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Persona_(marketing)))